

2021年1月4日
社長 稲葉 慎司

皆さん、新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。

始めに、厳寒の中、昼夜を問わず給油業務や施設管理に取り組んでいただき、本当にお疲れ様でした。深く感謝し改めて敬意を表します。まずはゆっくりし、心身の疲れを取って下さい。

さて、去年はまさしく新型コロナに振り回された一年でした。
1月末のANA武漢向けチャーター機派遣と時を同じくして、世界の航空会社が減便を開始し、私たち給油業界も未曾有の休業状態に突入しました。日本中が東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に沸き、羽田等基幹空港の増枠に向け航空インフラを再整備しようとしていた矢先だっただけに、その落差たるや極めて大きなものでありました。
結果的に当社も減収減益となり、4月から休業申請をした雇用調整助成金を始め、複数の公的助成を受けることを決断しました。こうした対策を講じても、今期決算は大幅な赤字となります。

一方でこの間、私は改めて当社の底力を目の当たりにしました。
まずもってコロナ禍がここまで広がる中、当社は今日現在、一人も感染者を出しておりません。まさに皆さんの安全に対する高い意識と責任感によるものと認識しています。
また将来に向けて、事業所では、休業中も安全技術やコンプライアンスを中心に研鑽を重ね、空いた時間帯には車両や施設管理を従前にも増して徹底的に行っています。同様に本社でも様々な業務改善を行い、現状に甘んじない強い意志を示してくれています。例えば新安全規定の策定、給油システムの開発、ホームページや給油車両の塗装およびユニフォームの刷新、全社横断型SACへの改編、危険予知訓練(於日立)や安全通達の導入、健康促進に向けた禁煙プロジェクト等々、皆さんの尽力により、成果は遠からず確実に現れると信じています。

なかなか収束の見通しは立たず、長期戦を覚悟せざるを得ない状況ですが、海外では新型ワクチンが承認され、本格的な接種開始の報道も連日されています。信頼性の高い仕事で空の安全を守るのは、航空各社の復便の如何に関わらず、私たちの唯一無二の使命です。空港という社会インフラを担う責任とやりがいを共有し、今年も一步一步、ともに歩みを進めていきましょう。
ご安全に。